

報道関係各位

認定特定非営利活動法人 経営支援 NPO クラブ

＜任期満了に伴い、新理事長誕生＞  
新規大型案件受託で、好調なスタート！  
2024年度 通常総会を学士会館で開催

去る5月28日、認定特定非営利活動法人 経営支援 NPO クラブ（東京都千代田区、以下「NPOクラブ」）は、東京・千代田区の学士会館において第22期（2024年3月期）通常総会を開催しました。

2023年度はコロナがほぼ収束し、ようやく行動制限のない環境に戻り、社会経済活動も本格的な回復に向かった一年となりました。

NPOクラブにおいても、支援活動における制約がほとんどなくなり、様々な支援活動が順調に進みました。

組織運営では、月例会議はリアル+WEBでのハイブリッド型がすっかり定着し、リアル参加組は会議後の恒例の飲み会が復活。最近は事務所に訪れる会員も増えてきており、時にはワイワイガヤガヤとにぎやかな状態がみられています。また、各グループと関西グループとのリアル交流も活発に行われるなど、NPOクラブのさらなる飛躍に繋がる活力の醸成も頼もしく感じる年度となりました。



▲東京・千代田区の学士会館



総会は出席正会員104名、委任状及び書面議決書提出正会員67名の計171名（正会員の70%）と定款で定める定数に達して成立、13時半から開始されました。議長は助川理事長が務め、第22期事業報告及び決算報告、第23期活動予算、役員を選任、定款の改訂等を決議。要旨は下の通りです。

#### 基本方針 A. 中小企業への経営支援活動（収益活動）

- ① 23年度は受託案件数が増加し、支援活動実績（支援企業数：1145社、支援回数：2903回）はコロナ禍前に近い状態となり、経常収入は前年度実績を上回ったが、大型案件の減少により期首計画には及ばなかった。支援内容は販路開拓支援を中心に、中小企業への経営支援活動、総合的な経営相談、現場改善支援、デジタル技術活用支援、新技術の事業化支援等も定着しつつある。

②収益面では、経常収入が前年度実績を上回ったものの、大型案件の減少、案件規模の縮小等で期首計画に及ばなかった。また、経常費用が活動量及び内部会議費の増加で前年度を上回り、経常損益は少額のマイナスに留まった。

③重点課題「案件（委託元）開拓」では新たに活動予算を設け、新・旧開拓先と積極的に情報交換を行った。特に関西グループは外部顧問として西田顧問を招聘し、24年度の新規案件受託の成果に結びついた。

案件（委託元）開拓は中央官庁・自治体、イベント企業、金融・商工会の各リーダーの下に動しているが、次期中期活動方針でも「各機関との連携強化」を重点課題として取り組んでいく。

④24年度以降、基本方針「B. 社会貢献活動」の重点課題「有望中小企業の発掘と総合支援」と統合し、「有望中小企業の発掘と総合支援」として課題達成に向けた支援活動を進めていく。



▲助川前理事長

### 基本方針 B. 社会貢献活動（非収益活動）

①重点課題「SDGs 活用支援」は、NPO クラブ活動について SDGs の観点での整理を終えたので、機会をみて HP 等で紹介する予定。また特定支援会員様の協力を得て、SDGs 導入過程での課題を検討した。本課題は本年度で終了する。

②能登半島地震に対する義援金として、会員からの多くの募金と併せ 90 万円を石川県東京事務所に届けた。今後の被災地に対する支援活動は、自然大災害復興支援チームが同県との情報交換を進める中で考えていく。

③自主的な活動を行っている研究会・タスクチームの中で、エネルギー産業研究会はその成果が具体的な支援活動に反映されたことは大きな励みであり、今後の成果の活かし方の参考になる。

### 基本方針 C. 運営体制の整備・充実

①重点課題「支援活動環境整備、対話の場の拡大（活性化）」では、会員が活動に関する悩みなどを気軽に相談できる場として、ベテラン会員で構成する「よろず相談承りチーム」（YS チーム）を設立し、運用することになった。組織に必要な活動となるように進めていく。このほか同好会活動でも、囲碁クラブ、ゴルフ同好会、料理教室、関西ゴルフ会、関西ウォーキング会に加え、新たに合唱団、あるこう会、九州の会などが生まれ、会員相互の交流の機会が増えている。なお、本課題は本年度で終了する。

②重点課題「若者や女性が活躍できる環境確保の支援活動」は、課題名を「会員が活躍しやすい環境の確保」に変更し、リーダーを含めてチーム体制を見直し、今後に繋がる検討を開始した。

③重点課題「デジタル環境の整備と会員対応力向上」については、NPO クラブ全体に関わる課題。PC、OA 備品の丁寧な取り扱いなど、対応力向上は 24 年度も引き続き検討していく。

④重点課題「寄付金募集活動推進」は、寄付金募集の体制（寄付口座開設）や HP での「寄付金のお願い」のバナー設置など一連の体制は整備された。企業・団体・個人と NPO クラブとの信頼関係の構築は重要なため、会員に引き続き協力を要望。なお、本課題は本年度で終了する。



\*

\*

なお、3月の理事会でNPOクラブのミッション・ビジョンが下の通り決定した。  
新HPにも掲載した。

#### <ミッション>

中小企業の支援と次世代育成支援を通して、  
ボランティア精神で社会に貢献します。

#### <ビジョン>

いつの時代にも頼りにされ、  
社会から評価される持続可能なNPOクラブを目指します。



また、今回の総会では「役員を選任」と「定款変更の追認」についても、それぞれ承認されました。

「役員を選任」では理事長を含み、理事候補者の14名（再任9名、新任5名、うち女性2名）、及び監事候補者の2名（再任2名）がそれぞれ承認され、新たな理事長には事務局長を務めてきた酒井基次氏が就くことになりました。理事長及び理事、監事の任期は今通常総会から2年間となります。



そのほか当日は、①**新旧理事長挨拶**、②**特定支援会員交流会（第40回セミナー）開催報告**、③**関西グループ設立10周年記念報告**、④**新入会員（リアル8名、Web参加3名）の紹介**がありました。

①の**新旧理事長挨拶**は、総会当日、理事長が選任されたことを受け初めて機会が設けたものです。助川英治前理事長と酒井新理事長がそれぞれ、次期中期活動方針に向けての意気込み、会員へのメッセージなどを語りました。

②**特定支援会員交流会**（開催日：4月22日、於：千代田区スポーツセンター8F会議室）は、23年に実施した特定支援会員へのアンケートの要望（「リアルでの交流会の設定」）に基づき、特定支援会員連携チームが初めて企画しました。当日は予想に反して東北、中部、関西、四国、九州から当初予定の2倍の企業（リアル参加：特定支援会員21社23名、正会員助川理事長以下関係者29名／Web参加：同2名、同8名…合計63名）が参加。内容は特定支援会員による企業紹介（3分間スピーチ）、関西グループによる交流事業紹介（鋳物師塾活動の概要、関西メタルジャパン共同出展）、東京大学の梶原優介教授による特別講演会「接着剤レス接合方法の基礎と応用」などで、参加した特定支援会員から「また参加したい」との要望が多く届いているとか。同チームでは今後同様の交流会が開催できるよう検討していく方向です。



▲酒井新理事長



▲特定支援会員交流会を報告する林チームリーダー。

③関西グループ設立10周年記念報告は、同グループの10周年記念行事の一環で制作された動画を、当日、総会の場で披露しました。記念式典は5月16日、JR新大阪駅至近のニューオオサカホテルで催され、助川前理事長も出席。関西グループの事務所オープンに駆けつけた松原市の田口一江副市長が講演を行い、同グループの節目に花を添えました。



▲関西グループ記念動画を説明する田畑理事。

総会は定刻通り16時に終了し、懇親会に移る準備の間に臨時理事会を開き、副理事長3名(井料敏和、近藤芳輝、松本民雄)が互選により再任されました。

また、理事長の指名により新事務局長には小山克彦氏が選任されました。

懇親会では和奏女子楽団ウーマンオーケストラ『エル・マジェスタ』が名曲「さくらさくら」の他、サウジアラビアで演奏した日本のアニメ主題歌などを、バイオリン、フルート、琴の編成で演奏し、会場を盛り上げました。また、新たに誕生した同好会「NPOクラブ合唱団」も懇親会冒頭で「灯台守」や最後に、「遠くへ行きたい」を歌うなどさっそく美声を披露し、他の会員も一緒になって歌うなど、大きな歌声が会場いっぱいに響き渡りました。



<本件に関する問い合わせ先>  
 認定特定非営利活動法人 経営支援 NPO クラブ  
 広報委員会：井料、宇川 TEL:03-5577-6785  
<https://www.ka-npo.com/>

